

2019年度関東弁護士会連合会シンポジウム

弁護士・弁護士会によるネットワークの構築

～多様な連携の現場から ― 学校・事業・高齢福祉・刑事司法～

2019年9月27日(金)10:00-13:00

ANAクラウンプラザホテル新潟

入場無料・要事前申込み

主催：関東弁護士会連合会 新潟県弁護士会

後援：法務省 新潟県 新潟県教育委員会 新潟市 新潟市教育委員会 (一社)新潟県商工会議所連合会 (公財)にいがた産業創造機構 (社福)新潟県社会福祉協議会 (公社)新潟県社会福祉士会
(一社)新潟県老人福祉施設協議会 (一社)新潟県介護支援専門員協会 新潟県地域生活定着支援センター 日本スクール・コンプライアンス学会[2019年7月19日時点]

10:00~12:00 分科会

4つのテーマで分科会を行います。ご興味のある分科会を選んでご参加ください。参加申込みの際は、参加される分科会をお知らせください。

第1分科会 学校 学校と弁護士の連携 ～弁護士による学校へのサポート～

定員
300

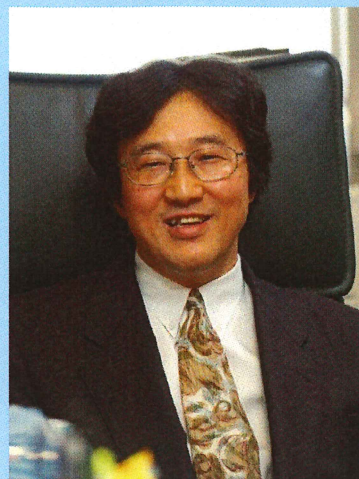
スクールロイヤーの導入と活用、いじめ予防教育、教員のワークライフバランスをテーマとする分科会です。
日本スクール・コンプライアンス学会会長の日本女子大学教授坂田仰氏による基調講演「学校における法化現象について弁護士に望むこと」のほか、全国各地のスクールロイヤー制度の調査報告、新潟県弁護士会が実施しているいじめ予防授業に関する報告、NHKドラマ「やけに弁の立つ弁護士が学校でほえる」監修者の弁護士神内聡氏から教員の働き方改革に関する提言を行います。
さらに、坂田氏を交え学校教育について幅広く議論します。会場からのご質問も受け付けます。

基調講演

「学校における法化現象について弁護士に望むこと」

※第1分科会内で行います

坂田 仰(さかた・たかし)氏
東京大学大学院法学政治学研究科を経て、日本女子大学に赴任。専門は教育裁判の研究。学校教育紛争を題材にし、スクール・コンプライアンスの在り方について研究している。日本スクール・コンプライアンス学会会長。



※会場
第1分科会は
3階「飛翔」
にて、
第2～4
分科会は
2階「芙蓉」
にて行います

第2分科会 事業 創業者の想いをつなぐ ～創業支援・事業承継支援における連携～

定員
80

弁護士と関係機関との間で連携が進みつつある「事業承継」、連携が始まりつつある「創業支援」をテーマとする分科会です。
分科会前半は、金沢弁護士会における全国初の中小企業基盤整備機構との連携協定締結等の取組みや、福岡県弁護士会における連携の取組みについての視察調査報告を行い、また、全国の各弁護士会へのアンケート調査について報告します。
分科会後半は、事業承継・創業支援の各分野における連携活動に関して、先進的な取組みを行なっている弁護士会や連携機関の担当者とのパネルディスカッションを行います。パネルディスカッションでは、取組みの内容、成果、課題等をうかがった後、今後の連携の在り方、弁護士及び弁護士会の果たすべき役割や取り組むべき課題について議論します。会場からのご質問も受け付けます。

第3分科会 高齢福祉 こんな弁護士なら連携したい？ ～高齢者福祉分野における実践～

定員
80

高齢者福祉分野における弁護士と自治体・福祉関係者との連携をテーマとする分科会です。
分科会前半は、「ソーシャルワーク・ノート」(連携便利帳)の紹介、東京都足立区における自治体及び福祉関係機関と弁護士との連携活動報告、埼玉県三郷市での新規開拓弁護士による自治体等との連携活動報告と盛りだくさんの内容です。
分科会後半では、行政・福祉の各担当者を招き、弁護士との連携活動の在り方、福祉部門担当者の弁護士に対する期待と要望、連携にあたって弁護士・弁護士会・行政・福祉専門職に求められることについてパネルディスカッションで議論します。

第4分科会 刑事司法 「福祉」と「司法」の 本当の連携を実践する

定員
80

刑事司法手続(いわゆる「入口」や「出口」等)における「福祉」と「司法」の連携をテーマとする分科会です。
被疑者・被告人となって刑事司法手続の対象となる人の中には福祉等の支援が必要な人がいます。
分科会前半では、事件発生から公判段階までのいわゆる「入口」における支援の先駆的取組みを行う(一社)東京TSネット代表理事の弁護士山田恵太氏から、被疑者・被告人となる人の実像や更生支援計画の作成を取り入れた活動について基調報告をいただきます。
分科会後半では、NPO法人静岡司法福祉ネット明日の空代表の飯田智子氏、群馬県地域生活定着支援センター長の高津努氏を交え、「福祉」と「司法」が目指すべき本当の連携とはどのようなものか、議論します。

12:15~13:00 全体会

@3階「飛翔」

分科会終了後、全参加者が一堂に会して各分科会の報告を行い、シンポジウムの総括を行います。
全分科会でどのようなことが議論されたか共有し、弁護士・弁護士会が取り組む「連携」はどこに向かうべきか、検討します。
ぜひご参加ください。

アクセス



ANAクラウンプラザホテル新潟

〒950-8531
新潟県新潟市中央区万代5-11-20
(TEL: 025-245-3333)

新潟駅万代口より タクシー利用 約5分
徒歩 約10分

お問合せ・申込み

お申込みは、FAXまたは電話にて承っております(準備の都合上、事前にお申込みください)。

関東弁護士会連合会
☎ 03(3581)3838

関東弁護士会連合会 宛(FAX 03-3581-0223) ※9月6日(金)しめぎり。切り取らずにそのままFAXしてください。
2019年度関東弁護士会連合会シンポジウムへの参加を申し込みます。

お名前: _____ 所属: _____
電話番号: _____ 分科会: 学校・事業・高齢・刑事

(参加をご希望の分科会を丸で囲んでください。会場の都合上ご希望に添えない場合がございますことをご了承ください。)

分科会1 学校と弁護士の連携～弁護士による学校へのサポート

1 テーマ

『学校と弁護士の連携～弁護士による学校へのサポート』

- (1) スクールロイヤールの導入と活用
- (2) 教員のワークライフバランス
- (3) いじめ予防教育

2 内容

第1部 基調講演

講演者：坂田仰（さかた たかし）日本女子大学教授、日本スクール・コンプライアンス学会会長

テーマ：「学校における法化現象について弁護士に望むこと（仮）」

第2部 報告

(1) スクールロイヤールの導入と活用

○先進的な全国のスクールロイヤール制度

大阪、三重、大分、徳島、茨城での取組みを紹介します。

○弁護士（会）と自治体との連携方法

取り得る制度のメリット・デメリットの比較など、複数のモデルケースを提示します。

(2) いじめ予防教育

新潟県弁護士会で実施している「いじめ予防授業」を紹介します。

(3) 教員のワークライフバランス

神内聡弁護士（NHKドラマ「やけに弁の立つ弁護士が学校でほえる」監修者、「スクールロイヤール」（日本加除出版）著者）から、弁護士であり、現役の私立高校の教師という立場を踏まえ、現場の実情を踏まえた提言をします。

第3部 パネルディスカッション

上記各テーマや近時の学校における諸問題について、坂田教授を交えてディスカッションをします。

会場からの質問も受け付けます。

以上

分科会 2 「事業承継」及び「創業支援」の各分野における連携

1 テーマ

(1) 事業承継

事業承継の分野については、全国の各弁護士会と関係機関との間で、既に一定の連携関係が構築されているが、他方で、連携関係構築後の課題も生じていると思われる。現在、各弁護士会が直面している課題について議論を深め、今後の連携の在り方、弁護士及び弁護士会の果たすべき役割や取り組むべき課題を検討する。

(2) 創業支援

創業支援の分野については、現状、弁護士会としては積極的に関与できていないと思われる。中小企業の創業を支援するため、今後、どのような連携の在り方が考えられるか、弁護士及び弁護士会が取り組むべき課題等について検討する。

2 内容（全2時間予定）

第1部 報告（30分予定）

- (1) 「事業承継」・「創業支援」の各分野の連携活動について先進的な取組の紹介
(金沢弁護士会における全国初の中小企業基盤整備機構との連携協定締結等の取組、福岡県弁護士会における連携の取組について視察報告を予定。)
- (2) 「事業承継」・「創業支援」の各分野における全国の各弁護士会の取組等の紹介
(全国の各弁護士会へのアンケート調査の結果の報告)

第2部 パネルディスカッション（90分予定）

(1) パネリスト

「事業承継」・「創業支援」の各分野における連携活動に関して、先進的な取組をしている全国の弁護士会または連携機関の担当者複数名を予定。

(2) 内容

- ・「事業承継」・「創業支援」の各分野における連携活動について、先進的な取組の紹介、取組の成果・課題等
- ・「事業承継」・「創業支援」の各分野について、今後の連携の在り方、弁護士及び弁護士会の果たすべき役割や取り組むべき課題
- ・場内からの質問、質疑応答等

以上

分科会 3 高齢者福祉分野における弁護士と自治体・福祉関係者との連携実践

1 テーマ

高齢者福祉分野における弁護士と自治体・福祉関係者との連携実践活動を紹介し、福祉担当者及び弁護士・弁護士会が直面している課題について議論し、今後の連携の在り方を検討する。

2 内容（全2時間予定）

第1部 各種報告

(1) 高齢分野の「連携」に関するアンケート結果の報告（5分）

- 全国の弁護士会から得られた回答をもとに、成果と課題を整理する。

(2) 新潟県弁護士会における関係機関との連携活動の紹介・説明（10分）

- 新潟県弁護士会が実施している支援者支援活動（「弁護士・支援者ほっとライン」）を紹介し、弁護士会としての連携の在り方を検討する。

(3) 「ソーシャルワーク・ノート」の紹介・説明（15分）

- 弁護士・福祉担当者の双方に有益と思われる制度や具体的な連携方法を紹介・説明する。

(4) 東京都足立区における自治体等と弁護士の連携活動報告（15分）

- 足立区における先進的な取組みを紹介し、行政、福祉、弁護士それぞれの想いから高齢者福祉分野における弁護士連携活動の未来を検討する。

(5) 新規開業弁護士による自治体等との連携活動報告（15分）

- 新規開業弁護士（須賀翼弁護士。埼玉弁護士会所属）の実際の連携活動を振り返り、活動開始から半年後の到達点と、見えてきた今後の課題を検討する。

第2部 パネルディスカッション（55分）

(1) コーディネーター・パネリスト

コーディネータ 中澤 泰二郎 弁護士

パネリスト

渡部 敦子 様（足立区 地域包括支援センターさの センター長）

吉井 馨 様（三郷市 福祉部長寿いきがい課 課長補佐）

須賀 翼 弁護士（当連合会平成31年度シンポジウム委員会委員）

(2) パネルディスカッションの内容

- ・ 弁護士と自治体等との連携活動の在り方（連携の端緒・方法・スタンス）
- ・ 福祉部門担当者から弁護士に対する期待と要望
- ・ 弁護士から福祉部門担当者に対する期待と不安
- ・ 連携にあたって、弁護士会に求められていること
- ・ 弁護士・福祉専門職の私たちに求められていること

第3部 まとめ（5分）

- これまでの成果と今後の課題を報告する。

分科会 4 刑事司法における福祉等との連携

1 テーマ：「福祉」と「司法」の本当の連携を実践する

- (1) なぜ「福祉」と「司法」の連携が必要なのか
- (2) 「入口支援」「出口支援」とは（更生支援計画その他）
- (3) 連携における現状の問題点、あるべき姿とは

2 内容（全2時間を予定）

第1部 問題提起 10:00～10:10

- なぜ「福祉」と「司法」の連携が必要とされてきているのかについて、刑事手続におかれた方の現状を踏まえて整理します。そのうえで、各地の弁護士会の先進的な取組みについて、アンケート結果を交えて報告します。また、「福祉」と「司法」の連携を阻害する要因について、検討します。

第2部 基調講演 10:10～10:45

- 一般社団法人東京TSネット代表理事 弁護士 山田恵太氏

【東京TSネット】すべての人が障がいの有無にかかわらず地域で暮らせる「共生社会」を目指すことを理念とする団体。地域でトラブルに巻き込まれた障がいのある方を支援するために、福祉専門職、弁護士、医師などが集まる。福祉的な支援が必要と思われる被疑者・被告人に対する個別ケース支援などを行う。

第3部 パネルディスカッション 10:45～12:00

(1) パネリスト

- ・一般社団法人東京TSネット代表理事 弁護士 山田恵太氏
- ・認定NPO法人静岡司法福祉ネット明日の空代表 社会福祉士 飯田智子氏

【明日の空】静岡県駿東郡長泉町を拠点に「誰もがやり直せる、希望を持って生きられる社会を創造する」ことを目指し、「被疑者・被告人」の支援、更生支援計画の作成、緊急一時シェルターの確保など多岐にわたる事業を行う。

- ・群馬県地域生活定着支援センター長 高津努氏

【群馬県地域生活定着支援センター】社会福祉法人はるな郷が受託し運営する地域生活定着支援センター。出所した人の地域生活のコーディネート業務、その後のフォローアップ業務などのほか、群馬つなごうネットの活動にも携わる。

(2) パネルディスカッションの内容

- ・各パネリストの活動報告
- ・「司法」と「福祉」の協働のあり方／行政の取組みと民間の取組み
- ・触法障がい者の弁護活動において注意すべきこと
- ・弁護士・福祉専門職の私たちに求められていること
- ・今後の展望について

以上